

会 議 録

会議の名称	令和6年度 第2回戸田市総合介護福祉市民協議会
開催日時	令和7年1月29日(水) 午後1時30分～午後3時15分
開催場所	戸田市役所 5階 大会議室C
委員長等氏名	鄭会長、早船副会長
出席者氏名 (委員)	鄭会長、早船副会長、安彦委員、福田委員、早船委員、西内委員、山田委員、 小川委員、日名田委員、櫻井委員
欠席者氏名 (委員)	
事務局	山下次長、長友課長、大原主幹、黒木副主幹、小久保副主幹、山道主任、 和田主任
議 題	(1) 地域密着型サービス事業所の指定更新について (2) 第8期介護保険事業計画の令和5年度進捗状況(計画値と実績値の乖離状況)のモニタリング結果について (3) 令和6年度保険者機能強化推進交付金等に係る評価結果等について (4) 「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の公募要項等について (5) その他
会議結果	(1) 5つの事業所の指定更新が承認された。 (2) 第8期介護保険事業計画の令和5年度における計画値と実績値の乖離状況を説明し、その内容が適切であると承認された。 (3) 保険者機能強化推進交付金等交付のために国が定めた評価指数の達成令和5年度における達成状況及び、令和6年度の評価指標への改善・見直しについて説明し、承認された。 (4) 「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」事業者の公募要項等の内容について承認された。
会議の経過	別紙のとおり
会議資料	別添のとおり
議事録確定	令和7年2月28日 委員長等氏名 鄭 春姫

(会議の経過)

発 言 者	議題・発言内容・決定事項
	<p>1 協議会の開会（傍聴人なし）</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 協議事項</p> <p>（1）地域密着型サービス事業所の指定更新について</p> <p>①健やか人生福はうち （地域密着型通所介護）</p> <p>②通所介護サービスG o o D a y （地域密着型通所介護）</p> <p>③グループホームくつろぎの家 （認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護）</p> <p>④デイサービスセンターくつろぎの家 （地域密着型通所介護）</p> <p>⑤ふくじゅ草 （地域密着型通所介護）</p> <p>資料1に基づき、事務局、及び上記5事業者から説明</p> <p>～事業者①が入室し、説明開始～</p>
委員	お泊りデイは行っているか。
事業者①	行っていない。
委員	指定更新にあたり、今回からの新しい取組みや話したい事は何かあるか。
事業者①	利用者の定員は15名だが、現在空床がある。目標としては満床にしたい。また、利用者の希望に沿えるようにがんばっていきたい。
委員	パンフレットに（レクリエーションとして）映画鑑賞があるが、利用者にはどのような系統の映画が好まれるか。
事業者①	昔の邦画や昔の歌番組の映像が好まれる。

委員	それはプロジェクターで映写するのか、テレビなのか。
事業者①	テレビである。
委員	戸田市内の高齢者に認知症傾向が強いと感じており、「見る・聞く・書く・話す」という行動が必要である。(活動として)映像を活用している町会が少ない。俳優の顔写真を見せて「これは誰か」と聞くと答えてくれるが、その場限りで話が終わってしまう。しかし映画だと「昨日の映画はどうだった」と高齢者が集まったときの話題になる。老人会でも取り入れるように提案しようと考えていたところだ。
委員	事故はあったか。
事業者①	昨年、入浴の際に滑りそうになった事案が1件あったが、すぐに対応して事故には至らなかった。
委員	事故にならないような取り組みを何か行っているか。
事業者①	小規模であり、全てが見わたせるので、スタッフ同士で声を掛け合って、すぐに対応できるようにしている。
委員	職員の体制で、機能訓練指導員の兼務が6人とあるが、これは看護職員との兼務ということか。
事業者①	そうだ。
委員	機能訓練指導員と看護職員は1日に何人となっているか。
事業者①	2名以上である。
会長	1日の体制として2名以上なのか。
事業者①	機能訓練指導員と看護職員、看護職員のみ等が2名以上で、他は介護職員である。

委員	利用定員は15名となっているが、1日の実利用数はどれくらいか。
事業者①	月平均として、1日で11から12名である。 ～事業者①退室～ ～事業者②入室、説明開始～
委員	施設内通貨の「亀」の有用性、有効性について、どう考えているか。
事業者②	「亀」は開設時から10年の間、継続して活用しているが、当初思い描いているものと異なってきていると感じる。現在、利用者間のコミュニケーションツールのひとつとなっている。ルールとして、本物のお金のように扱えるが、あげたり貸したりはできない。しかし、利用者同士や利用者と職員の間で飲み物などを奢るといった行為で会話が生まれるというようなコミュニケーションツールであったり、麻雀等のアクティビティで本物同様に通貨として取り扱ったりしている。大事に貯蓄する方もいれば、どんどん使用する方もいたり、人間性が見て取れるものと感じる。
委員	「亀」は、利用者の認知機能の維持に役立っていると実感はあるか。
事業者②	データはないが、金銭管理をとおして認知機能の低下を防ぐとか、いわゆる脳トレといった意味合いで取り組んでいる。
委員	「亀」はどのようなことをすれば稼ぐことができるのか。
事業者②	洗濯物を干したり、畳んだり、皿洗いをしたり等の軽作業で、利用者が「できること」を事業所で用意している。行った作業に応じて、毎月15日に通帳に振り込んでいる。また、機能訓練や体操を行った回数に応じて、がんばった対価として振り込んでいる。この2つが主な内容である。他にも、イベント等でそれぞれ「亀」を出して勝負し、その賞金とすることもある。以上が「亀」を稼ぐ手段である。
委員	「亀」を稼ぐために、積極的に活動する姿勢がみられるのか。

事業者②	「亀」のシステムを利用者は理解しているため、(軽作業や体操などを)積極的にやりたいという声上がる。
会長	目に見える形で成果がわかるのは良いことだ。
事業者②	他の事業所でもいろいろなことをやっているが、自分たちは通貨といった目に見える形で行っている。
委員	チラシの料金表で昼食750円・おやつ200円となっており、一般的なデイサービスよりは高い価格帯と思うが、美味しい食事を提供するなど「売り」にしているものは何かあるのか。
事業者②	食事は施設内で調理しているので人件費・材料費を考慮するとこの金額になる。おやつは種類を多く揃え、日ごとにその場で選んでもらい、「亀」で購入するといった、駄菓子屋のようなシステムを取っている。できるだけ保存期限の長いものを選んだりし、多くの種類をそろえる必要があるため利用料金がこのようになってしまう。
会長	定員18名とあるが、現状はどうか。
事業者②	稼働率としては7割程度で、平均して、多い日で15、6人、少ない日で12、3人である。昨年の6月頃から施設への入所者が増加傾向にあり、新規としても受けて入れているが、どちらかといえば総合事業での利用が増えている。取り組みとしてADLの高い方が面白いと思うように考えており、要支援者の利用が増えてきている。
委員	地域との交流活動で、令和2年度から「コロナ禍により行えませんでした。」とあるが、令和5年度まで何も行わなかったのか。
事業者②	令和元年度まではゴミ拾い等での地域との交流があったが、それ以降は5類になったとは言えコロナの感染の可能性があるので、外出を控えていた。現在は、少しずつ地域との交流イベントも復活している。今後は積極的に行っていきたい。
	～事業者②退室～

	～事業者③入室、説明開始～
委員	資料の「アピールポイント」に書かれている勉強会についての内容と開催頻度を教えてほしい。
事業者③	毎月1回、職員ミーティングで、入居者のこと、業務全体について、感染症、虐待防止などのテーマを決めて行っている。
委員	勉強会はディスカッション形式で行われているのか。
事業者③	その時々で異なる。訓練であったり会議であったりする。
委員	年に一回、講師を呼ぶといった講演形式というのはどうか。
事業者③	やっていない。
委員	資料の「利用状況」の利用者数が毎年同じだが、変動はないのか。
事業者③	亡くなった方や体調不良で施設を出る方もいるため、移動はある。空床があるときもあるが短期間である。
委員	待機者はいるか。
事業者③	時々あり、いつもではない。
委員	避難訓練はどのように実施しているか。
事業所③	隣に（同系列の）デイサービスがあり、そちらと合同で行っている。グループホームからデイサービスへ移動し、通報の後、外へ避難するといった内容。消火器を用いた訓練も行う。
委員	大規模地震による建物倒壊を想定し、避難場所までの職員による誘導訓練は行っているか。
事業者③	行っていない。

委員	入居者の中に生活保護受給者はいるか。
事業者③	いる。
委員	(生活保護受給者の) 入居金は生活保護費から支給されるのか。
事業者③	その通りである。
委員	障害を持っている方はいるか。
事業者③	今はいない。
	～事業者③退室～
	～事業者④入室、説明開始～
委員	利用者のほとんどは(系列の)高齢者住宅の入所者か。
事業者④	そうだ。2年前までは在宅の利用者がいたが、体の状態が悪くなり高齢者住宅に入所となった。今も外から問い合わせがあるが、断っている。
委員	高齢者住宅も運営しているのか。
事業者④	建物は別に運営している。高齢者住宅とグループホームは建物が隣接している。
委員	リハビリに力を入れているとのことだが、資格を持っている職員はいるか。
事業者④	(自分が)以前にリハビリ施設で働いていた。その時の知識と外部からの先生の指導の下で行っている。
委員	グループホーム、デイサービス、サ高住で、一緒に避難訓練などを行っているか。

事業者④	避難訓練は一緒に行っている。
会長	グループホーム、デイサービス、サ高住とで、職員やボランティアの行き来（協力）はあるか。
事業者④	そういったことはない。
委員	このような三種の業務形態で困りごと、良いことはあるか。
事業者④	利用者が1日に15人から20人といった少人数で、いつも同じ顔触れなので、職員が緊張感に欠けていると感じるときがある。逆に、目が届き易く、きめ細やかなサービスが提供できていると思う。
委員	パンフレットにある一日の流れで「口腔体操や手指の運動」とあるが、どのようなことをしているのか。
事業者④	パタカラ体操、大声で歌う、舌を動かす運動を食前にやるというもの。手指の運動はマニュアルに沿って行っている。
委員	認知症の方には口と手を動かすことが大切なので、素晴らしいと思う。
会長	（地域との交流活動で）ハーモニカ演奏会とあるが、始めた経緯と何か独特な効果があれば教えてほしい。
事業者④	演奏者とは長年交流がある。演奏者も高齢の方が多く、また発表する場を持つことで、目標を持って活動している。利用者も喜んでおり、表情も豊かになってきていることから、毎年行っている。
委員	グループホームを含めて医療職がいらないが、スタッフや利用者の安心につながるため、今後の雇用についてどう考えているか。
事業者④	グループホームとともに、何かあればかかり付け医師がすぐに対応できるため不安はない。しかし、管理職が不在の際に経験の浅いスタッフでは対応が難しいと思うため、医療職の雇用については上司に相談してみる。
	～事業者④退室～

	<p>～事業者⑤入室、説明開始～</p>
委員	<p>宿泊サービスの利用者はどれくらいいるのか。</p>
事業者⑤	<p>「ふくじゅ草」ではなく系列の「にりん草」が行っており、アパートが3棟で計18室ある。入居者の9割程度が2つの施設に分かれてデイサービスを利用している。</p>
委員	<p>外部の方の利用はあるか。</p>
事業者⑤	<p>ある。</p>
委員	<p>小学校からの職場体験受け入れは、どれくらい行っているのか。</p>
事業者⑤	<p>5年生になると職場体験があり、当時通っていた自分の息子の学校から声をかけてもらったのがきっかけである。子ども達は車いすを押ししたり、お年寄りに接する機会がないので、ビンゴなどを企画してくれて、良い交流ができています。</p>
委員	<p>そのような交流は素晴らしい。今後も続けてほしい。</p>
会長	<p>5つの事業所の指定更新について異議はあるか。</p>
委員一同	<p>異議なし。</p>
会長	<p>それでは、当協議会として、5事業者の指定の更新を承認することとする。 (2) 第8期介護保険事業計画の令和5年度進捗状況（計画地と実績値の乖離状況）のモニタリング結果について (3) 令和6年度保険者機能強化推進交付金等に係る評価結果等について</p>
会長	<p>協議事項（2）と（3）は関連性があるため一括議題とする。</p>
事務局	<p>資料2、3-1～3-3に基づき、以下を踏まえて事務局より説明。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2に記載されている「1. 被保険者数（年度別）」から「5. 総給付費」の令和5年度における推計値に対する実数値が90%前後の高い割合であったことから、適切な推計値であったと考えられる。また、各々の項目の中で乖離の大きいものは第9期計画以降も注視していく。 ・資料3-1より令和5年度の両交付金に係る評価結果として県南7市中戸田市は6位であった。この結果を基に分析を行い、従来の取り組みに工夫と改良を加えるものとして、資料3-2において得点を獲得できない評価指標に対する改善策を挙げ、各評価指数を満たす対応とした。 ・資料3-3において前述の対応の結果、県南7市での順位が3位に上昇した。
委員	第8期計画のモニタリングで一番乖離が大きかったリハビリ関係で推計値の6割ほど（乖離が）あるが、大きな要因は何か。
事務局	要因の細かいところまでは把握はできていない。厚労省の「見える化システム」というものがあり、地図上で掲載されている通所リハビリ施設を近隣市と比較しても、本市が特別に少ないというわけではない。施設はあっても利用者が少ないのか、ケアプラン作成時に通所リハビリをどのように捉えて、プランに加えているのかなど、その検証ができていないので明確な回答は難しい。
委員	訪問介護ステーションでも訪問リハビリを受けられるところもあるが、それは、（この数値に）含まれているのか。
事務局	含まれていない。
委員	訪問看護ステーションでのリハビリ利用者が圧倒的に多い。実際は訪問リハビリだけを行っている事業所は少ない。
※特記	会議後にケアプラン作成経験を持つ市職員に確認した結果、「訪問リハビリテーション」については、委員の指摘のとおり「訪問看護」のサービスの中でもリハビリが行われている。また、「訪問リハビリテーション」は短時間で高い単位数となるため、「訪問看護」の方が選ばれ易い。加えて、「通所リハビリテーション」については、「通所介護」と比較した場合に、やはり短時間で高い単位数となるため、「通所介護」が選択されることが多いとの

ことであった。

委員

今回は数日前に資料が届いた。内容を精査したいため、もう少し早く資料を送付してほしい。

事務局

申し訳ない。

委員

保険者機能強化推進交付金とは、資料3-1の評価指数合計点数によって変わってくるものなのか。

事務局

評価指標というものがあり、その指標を満たすことで加点される。加点の合計点によって両交付金の金額が決まるものである。例として「資料3-2」の2ページに評価指標「介護保険事業計画の進捗状況（計画値と実績値の乖離状況）を分析しているか。」というものがあり、これに対するア～エの項目を満たせば得点が付与される。昨年度まで本市で得点できていなかった（0点）部分は、本協議会で介護保険事業計画の進捗状況（モニタリング）を検証することで満たしているとみなされる。なお、この得点数が直接交付金額となるものではなく、自治体の規模、第1号保険者数等に応じて交付金額が決まる。※

※

1 保険者規模別配分額の算定

次の計算式のとおり、各市町村の第1号被保険者数について、規模別（注1）の合計人数が全国の合計人数に占める割合に応じて予算額（注2）を按分し、第1号被保険者規模別配分額を算定する。

$$\begin{array}{l} \text{第1号被保険者} \\ \text{規模別配分額} \end{array} = \begin{array}{l} \text{推進交付金・支援} \\ \text{交付金の予算額の} \\ \text{一部} \end{array} \times \frac{\begin{array}{l} \text{当該規模別の第1号} \\ \text{被保険者数の合計} \end{array}}{\begin{array}{l} \text{全国の第1号} \\ \text{被保険者数の合計} \end{array}}$$

委員

戸田市は昨年の6位から3位となったが、評価点数は何点か。

事務局

評価点数は、令和7年でいえば両交付金合計484点である。内訳は保険者機能強化推進交付金分が257点、介護保険保険者努力支援交付金分は227点である。令和6年は合計414点、令和5年は合計1,192点であった。

まだ歴史の浅い交付金であるため、評価点数や評価指標が毎年のように変わることによって、得点配分が変わっている。令和6年と令和7年では比較

	<p>的評価指標や配点に変化がなかった。</p>
委員	<p>和光市は常に1位だが、他市と比較して取り組みに違いはあるか。</p>
事務局	<p>和光市は先駆者であり、その取り組みは独特であるという認識を持っている。取組の違いや独自性の詳細をこの場において口頭で説明することは難しい。</p>
委員	<p>和光市の取り組みで、戸田市でもできるものはあるか。</p>
事務局	<p>「地域ケアシステム」は地域の特定に基づき目標を立てている。この点から和光市の取り組みすべてを戸田市にすぐに同じように取り入れることは難しいと認識している。</p>
委員	<p>和光市は地域包括のモデル地区になっており、この評価のベースとなっている。他市は後発で取り組んでおり、各々の地域特性に合わせているという歴史的な流れがある。</p>
会長	<p>資料より川口市は7位から2位になっているのは何かあるか。</p>
事務局	<p>この評価結果は公表されることとなっており、このため各市は評価指標を満たすことが目的になってきている。本来ならば、地域特性に合わせた従来の取り組みに工夫と改善を加え、より多くの評価指標を満たしていきべきと考える。</p>
委員	<p>埼玉県内の市町村間で、取り組みの改善点等についての情報共有は行っているのか。</p>
事務局	<p>蕨市や川口市とは、情報共有及び連携を行っており、評価指標の見直しができるものはあれば参考にしたいと考える。</p>
	<p>(4) 「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の公募要項等について</p>
事務局	<p>資料4に基づいて、事務局より説明。</p>

委員	この制度を利用した場合の事業所へのどのようなメリットがあるか。
事務局	包括報酬であり、サービス提供時間に関係なく安定した収入が見込める。
委員	事業なので利益を出し、従業員の賃金も上げる必要がある。この制度では現行のデイサービスとの違いが見えず、「うまみ」が見えないのではないか。
事務局	訪問する時間に縛りがなく、事業者側の判断により柔軟に内容や時間等の変更が可能であることがメリットと言える。
委員	資料4に「埼玉県地域密着型サービス等整備助成事業費等補助金」の活用を検討とあるが、募集が始まるにあたり、埼玉県から補助金を受ける目途は立っているのか。
事務局	埼玉県には予算計上の要望をしており、現在埼玉県にて審議中である。 戸田市でも議会に予算要求はしているが、補助金は単年度予算であるため本市も埼玉県も未だ議決されていないので、結果次第で補助金が出ない可能性もあるということを留意し、資金計画を立ててほしいとお願いしている。
委員	事業者へのメリットとして、戸田市独自の支援策は考えているか。
事務局	埼玉県の補助金で運営を行うことが可能であり、戸田市で支援を行う必要はないと考える。本市では今年度から介護ロボット導入に係る補助金の交付を始めており、今ある市内の事業所に向けての支援は行っている。良い意見があれば参考としていきたい。 また、補助金を受けると事業がたたためないのでという点もある。令和4年度にグループホームを開設した事業者は埼玉県の補助金を活用しなかったという事例もある。
委員	今日の朝刊で訪問介護事業所の倒産件数が過去最高との記事があった。事業自体が違うが、現行の介護報酬制度を続けると事業所の経営は厳しい。物価高騰のあり、何らかの支援必要であると考え。今のままではメリットが見当たらない。

事務局	<p>(本事業は) 事業者よりも利用者へのメリットが大きいと考える。また、在宅の利用者には24時間いつでもサービスを受けられる点で、訪問介護とは異なると思う。</p> <p>埼玉県内の市町村のほとんどは1事業所以上あるが、現状、戸田市には(定期巡回の)事業所がひとつもないので、積極的に誘致していきたい。</p>
会長	<p>昨年度の会議で、戸田市内にひとつもないことが話題になった。</p>
委員	<p>ぜひ誘致してほしいとの話をした。手をあげてくれる事業所があれば良いと思う。</p> <p>(5) その他 特になし。</p> <p>3 閉会 令和7年度第1回の開催は、6月下旬を予定している。具体的な日程が決まり次第、案内をする。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>